

名古屋学院大学

2026 年度一般選抜 出題の意図

試験区分	一般入試（前期）
試験日	1月30日
科目	政治・経済

設問Ⅰ

最近様々なメディアでも取り上げられた憲法上の人権問題事例（文章問題）をより正確に読み解くための前提的知識や理解力があるかを問うものです。具体的には、①現行日本国憲法における人権保障の内容や構成、②大日本帝国憲法と日本国憲法の違い（特に人権部分）、③人権史、④憲法の基本原理の一つである国民主権を実現するための法制度、についてです。いずれも教科書に記載されている内容を暗記していれば大部分は回答できますが、より正確に回答するためには、①②③④のみならず、これらの一つ一つの知識を時事問題と紐づけできるようにすることが必要になります。

設問Ⅱ

現在の国際社会で起こっている事象への注目度および、その事象に伴う国際社会の仕組みをどの程度理解しているのかを問うものです。国際社会の仕組みについては、その基本知識を教科書にある事項の理解および関連するテーマへの興味をもって学んでほしいという旨に沿って設問してあります。

設問Ⅲ

グローバル化やデジタル化が急速に進展している現在の世界の経済状況を、より詳しく理解するために必要な知識を有しているかどうかを問う問題構成になっています。教科書に記載されている経済の理論や制度・歴史を踏まえ、グローバル化やデジタル化により地球全体で起こっている課題やその解決策を理解するための知識を有していることが求められます。

設問Ⅳ

経済学の基礎概念の理解、現代社会制度の基本構造の把握、誤った説明を識別する論理的判断力、暗記ではなく「概念理解」に基づく思考力の4点を測定することを目的としている。また、幅広い分野を網羅することで、受験者の総合的な経済理解力を評価する構成となっている。